

# 高校中退者

## 一六〇三人

### 一九九九年

『新潟県教育月報』（県教育庁務課発行）三月号は、「意欲あふれる高校生活推進事業」を特集している。県内の高校中途退学者が急増していることを深刻に受けとめ、県教委は九八年度から「中退防止のための対応策」として同事業を実施した。下欄の表は高等学校教育課が示した、過去五年間の中途退学者・中退率の推移および中途退学の主たる理由の割合を表したものである。

表1で明らかのように、本県の中退者は九六（平成八）年で急増し全国平均を上回る二・五％（一九五八

表1 過去5年間の中途退学者数・中退率の推移(全定合計)

年度		7	8	9	10	11	10・11 比
合	中退者数	1,477	1,958	1,772	1,655	1,603	▲52
	当県中退率	1.8	2.5	2.3	2.3	2.2	▲0.1
計	全国中退率	2.0	2.3	2.4	2.5	2.4	▲0.1

表2 中途退学の主たる理由の割合(全日制)

理由		学業不振	学校生活・学業不適応	進路変更	病気・けが・死亡	経済的理由	家庭の事情	問題行動等	その他の理由
11年度	県	9.9	36.1	43.1	3.2	0.7	1.8	4.2	1.1
	全国	8.0	38.5	39.6	2.7	1.6	3.5	4.2	1.9

人)に達した。九九年には二・二％に減じたが、それでも一六〇人といえは中規模の高校二校分の生徒数である。せつかく入れた高校だといふのに、なぜこころも多くの中退者が

でるのだろうか。表2は、中退の主なる理由である。「進路変更」という理由が四三・一％、「学校生活・学業不適応」が三六・一％、合わせて八〇％を占めている。「進路変更」とはいうが高卒でも就職が困難な今の時代、中退した子のその後の進路はきわめて心配である。

県教委は前記の「推進事業」として何項目かの対応策を挙げているが、特に中退者の多い十校を対象に「仲間づくり」「小人数授業」「進路を考える体験学習」などを重点的に試みたという。その結果、このモデル校の平均中退率は実施二年目で八％から七％に減じたと報告されている。モデル校から寄せられたという「小人数授業によるきめ細かい指導の結果、原級留置者、中途退学者が減少した」等の成果に大いに注目すべきであろう。

(片岡 弘)